



いせはらシティプロモーション推進計画

# おもな取組の実績

【令和元(平成31)年度版】



伊勢原市公式イメージキャラクター  
クルリン

市では、行政・市民・関係機関がともにシティプロモーション活動に取り組み、地域の活力を高めていくため、いせはらシティプロモーション推進計画（計画期間 平成27-31年度）を策定しました。

さらにアクションプラン（行動計画）では、推進計画に掲げる48の取組のうち、けん引的・先導的な役割が期待される16の取組をリーディングプロジェクトに位置付け、シティプロモーション活動を展開してきました。

令和元（平成31）年度のおもな取組を紹介します。

なお、東京2020オリンピック・パラリンピックが2021年に延期されるなど新型コロナウイルス感染症が世界的に大きな影響を与えている中、今後のシティプロモーションの方向性について検討していく必要があります。

いせはらシティプロモーション推進本部

基本戦略① いせはらをもっと上手に発信する！  
～ハローいせはら戦略～

## リーディングプロジェクト1

### ■市公式イメージキャラクターの活用 1-1

#### クルリンによる全国キャラバン活動

3年ぶりに「ご当地キャラ博in彦根2019」に参加し、関西圏でのプロモーション活動を行いました。

市民からクルリンをデザインした手作りギターを寄付していただき、イベントでのPRに活用しました。また、人気の手遊びおもちゃ「KURURIN」とのコラボ商品やクルリン柄の畳縁、それを活用した小物など、さまざまな商品が発売され、話題となりました。



#### クルリンの公用デザインへの活用

令和元年5月1日の婚姻届および出生届の届け出者の記念撮影用に、クルリンと「日本遺産のまち伊勢原」のロゴを活用したバックボードを作成し、24件の利用がありました。

市制50周年の祝意醸成と市内外へのPRのため、ロゴマークの作成を東海大学教養学部芸術学科の学生に依頼。デザインにクルリンを使用しました。



## リーディングプロジェクト2

### ■市民参加によるブランドメッセージの創造 1-2

#### 市制施行50周年キャッチフレーズの作成

令和3年3月1日の市制施行50周年に向け、6月に関係団体や学生、公募の市民22人によるワークショップを行い、キャッチフレーズ案を作成。8月に市民投票を実施し「つながる つなげる 伊勢原のひとコマ」を決定しました（6,234票中2,161票を獲得）。

\* このほか、基本戦略①に関する取組として…

- 積極的なパブリシティ活動を展開し、「伊勢原ならではの」の情報提供を行い、過去最多となる1800件以上の伊勢原の記事が日刊紙などに掲載されました。（パブリシティ態勢の強化 1-5）
- 閲覧者のセキュリティを強化するため、市ホームページの常時SSL化を行いました。また、市制施行50年記念サイトを開設し、バナーをトップ画面に表示するとともに、市民にとって必要な情報を見つけやすくするためレイアウトの整理を行いました。（市ホームページの充実1-4）
- 市の概要や観光、行政手続き、医療情報などを掲載した「いせはら暮らしのガイド2020」を48,000部発行し、各戸配布を行いました。

基本戦略②「いせはら人」を育てる！  
～いせはらグロウアップ戦略～

## リーディングプロジェクト3

### ■市職員のオール宣伝部員化 2-1

#### 広報マインド研修等の実施

新採用職員研修で、歴史や観光など伊勢原をよく知るための科目を取り入れるとともに、地域への愛着を高めるための環境美化研修や情報を積極的に発信するためのホームページ作成研修などを実施しました。

## リーディングプロジェクト4

### ■いせはらPRサポーター制度の創設 2-2

#### いせはらPRサポーターの認定と活用

伊勢原をそれぞれの立場でPRする「いせはらシティプロモーション公認サポーター」に、新たに3名と1団体を認定し、登録数は52団体（個人）となりました。

活動の際に使用する名刺の作成、市公式ホームページでの活動紹介ページの充実を図ったほか、新たに腕章やトートバッグを配布し、サポーター活動を支援しました。

## リーディングプロジェクト5

### ■市民活動環境の整備 2-5

#### 市民活動サポートセンターの運営

センター開設10周年を記念して「おまつりフェスタ」「市民活動ウィーク」「市民活動フォーラム」の3つのイベントを実施、各団体の日ごろの活動発表やミニ講座を開催しました。延べ3,000人以上が来場し、多種多様な市民活動に触れていただく機会となりました。



#### \*このほか、基本戦略②に関する取組として…

■ 産業能率大学・柴田ゼミの学生や向上高等学校放送部の生徒と連携し、3本のプロモーション動画を制作、発表しました。ほかにも、市制50周年記念キャッチフレーズやロゴマークの作成（産業能率大学・東海大学）、「大山宿坊スタンプラリー」の実施（横浜国立大学）など、市内外の若者による魅力の掘り起こしが行われました。（いせはら男子・女子の養成 2-4）

■ 年間を通じた「伝統文化大山能狂言親子教室」の開催や中学校での「大山能体験教室」などを実施し、子どもたちに地域芸能である大山能を学ぶ機会を提供しました。

（いせはら大好きっ子の養成 2-3）

基本戦略③歴史と観光で呼び込む！  
～いせはらツーリズム戦略～

## リーディングプロジェクト6

### ■ “日本遺産” 認定に向けた取り組みの推進 3-9

#### 日本遺産の認定

宿坊体験型教育旅行の誘致を展開し、台湾からの中学生約50人を受け入れ、市内中学校での交流や宿坊でのとうふ作り体験のメニューを実施しました。

2月13日が「日本遺産の日」に認定されたことに伴い都内で実施されたPRイベントに、ブースを出展し、伊勢原市のPRを行いました。

## リーディングプロジェクト7

### ■ 歴史・観光スポットの整備 3-11

#### 歴史文化財解説板等の整備

日本遺産の構成文化財を整備するため、大山阿夫利神社参道の手すり、三之宮比々多神社の眺望板、日向薬師・宝城坊の安全柵および日本語・英語併記の解説案内板の設置、高部屋神社の参道石畳改修工事を行いました。また、市指定文化財「小澤家住宅」の解説案内板を立て替えました。



## リーディングプロジェクト8

### ■ 市内観光地へのアクセス向上 3-13

#### 新東名高速道路 伊勢原大山インターチェンジの開通

令和2年3月7日に待望の「伊勢原大山インターチェンジ」が開通しました。これにより神奈川県内外の各地域を結ぶ広域的な交通ネットワークが強化され、交通の利便性がさらに高まり、首都圏近郊都市として、湘南・県央地域における位置づけが一層大きなものとなりました。また大山のみならず、日向地区、比々多地区への玄関口としての役割が期待されます。

開通に先駆け12月7日に記念イベント「新東名いせはらウオーク」を開催しました。企業・団体ほか多くのボランティアの協力により、一般参加者・来賓・関係者を含め3,000人規模での開催となりました。



\*このほか、基本戦略③に関する取組として…

- 8月11日の山の日に合わせて、「山の日限定！伊勢原グルメ大山盛り!!」、「2019光の競演～大山絵とうろうまつり～」 「納め太刀ウオーク」を実施したほか、神奈川県マグカル推進事業として開催された「神話を奏でる大山一夜祭」を支援しました。人気アーティストが出演し、市外からも多くの観客が伊勢原市を訪れました。  
(誘客イベントの磨き上げ 3-1)

- 文化庁主催の日本博プロジェクトに参加し、日向薬師・宝城坊宝殿に安置されている貴重な仏像等をライトアップして展示する「宝城坊宝殿特別展覧会」を開催しました。また、大山火祭薪能を「インバウンド薪能」として、日本語・英語併記パンフレットの作成や通訳ガイドの配置など、外国人観光客に向けた取り組みを実施しました。



(誘客イベントの磨き上げ 3-1、ホスピタリティの向上 3-6、日向薬師宝城坊本堂・平成の大修理 3-8)

- 伊勢原うまいもの遺産創造委員会や小田急グループと連携し、「秋の大山詣りキャンペーン」や「伊勢原うまいものステーション」などを開催。観光誘客の促進を図りました。

(いせはらを堪能するツアー・キャンペーンの促進 3-2)

- 日向地区の歴史や文化、自然について、人気イラストレーターのキン・シオタ二氏が紹介するPR動画「キンシオ 文化財満載の伊勢原・日向地区に行く」をテレビ神奈川と作成。市公式YouTubeチャンネルで公開したほか、3月29日にtvk（テレビ神奈川）で特別番組として放送しました。

(身近に感じる文化財の発信 3-10)

- 伊勢原青年会議所の主催による「シャッターアート体験」に小学生36人が参加し、駅周辺の5店舗のシャッターに「大山詣り」のイラストを描きました。まちのにぎわいと新たな観光フォトスポットを創出しました。

(日本遺産の認定 3-9)





基本戦略④ 企業を呼び込む！産業を活性化する！  
～ウェルカムいせはら戦略～

## リーディングプロジェクト9

### ■ フィルムコミッションの創設 4-2

#### フィルムコミッションの創設

「いせはらフィルムコミッション」と連携し、「リーガル・ハート～いのちの再建弁護士～」「四分間のマリーゴールド」といった話題のテレビドラマやコカ・コーラのCMなどの撮影支援を行いました。また、大山の旅館が主要な場面として使用された映画「スペシャルアクターズ（上田慎一郎監督作品）」が全国の映画館で上映されました。



## リーディングプロジェクト10

### ■ 新たな産業用地の創出 4-4

#### 横浜伊勢原線沿道における企業立地の促進

企業立地予定時期に影響がないよう、工事工程管理などの支援を行いました。また企業誘致について進出意向企業と組合（地権者）との調整を支援しました。



#### 伊勢原北インター周辺のまちづくりの推進

土地区画整理事業の運営を担う業務代行予定者を選定し、事業計画案の精査を行うとともに、事業化に向けた関係機関協議や行政手続きを進めました。

## リーディングプロジェクト11

### ■ 農産物ブランド化の推進 4-7

#### 地産認証制度の創設

地域ブランド「日本遺産のまち 伊勢原うまいものセレクト」認定品について、市内外のイベントで出店・販売を行ったほか、農畜産物の付加価値向上のための取り組みを支援しました。

# リーディングプロジェクト12

## ■ 伊勢原らしい魅力的な景観づくり 4-8

### 景観まちづくりの推進

「いせはら景観写真展」や「景観まちづくりシンポジウム」の開催により、本市の景観の個性や魅力を多くの市民と共有することができました。また、本市の景観の素晴らしさをたくさんの人に伝えていくために、市民投票や市民ワークショップなどの開催による市民参加協働により、10の景観資源について、市条例に基づく地域景観資源登録を行いました。

大山地区について、特性を生かした景観まちづくりを推進していくために、地域住民との意見交換等を重ね、市条例に基づく景観重点地区に指定しました。

# リーディングプロジェクト13

## ■ 市街地における賑わいの創造 4-9

### 伊勢原駅北口周辺地区の整備

伊勢原駅北口周辺地区における整備手法について、関係権利者との合意形成に取り組みました。

### 商業による賑わいづくり

「伊勢原市商業振興事業プラン(H31~R3)」を推進するため、市内事業者や商業団体、行政などが連携した組織、「伊勢原市商業のまちづくり協議会」を発足し、商店街の活性化に向けた取り組みについての調査・研究を行いました。

\*このほか、基本戦略④に関する取組として…

- 歩行支援ロボットの開発・制作を行っているAssistMotion株式会社、信州大学、県、商工会、市内事業者と連携し、大山を訪れた観光客を対象に、ロボットを装着してこま参道を上る歩行実験を実施しました。観光事業への実用化や民間事業者によるロボット導入の可能性、課題等について検証を進めました。  
(さがみロボット産業特区の推進 4-5)

- 農業被害をもたらす野生鳥獣の食肉を味わい、地産地消を目的に、株式会社セゾンが「伊勢原地場産鹿肉メンチカツカレー」を考案しました。食肉は、市有害鳥獣対策協議会が整備した食肉処理施設で加工されたものを使用しており、4月から食堂のメニューとして販売されました。

(農産物ブランド化の推進 4-7)



基本戦略⑤ 健康づくりを通じてまちを元気にする！  
～いせはらヘルス&スポーツ戦略～

## リーディングプロジェクト14

### ■ 医療プロモーションの推進 5-1

#### 移動未病センター等の導入

健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指し、自らチェックすることで自身の健康状態を把握し、その結果に基づいて保健師や栄養士から健康づくりに関するアドバイスなどを受けられることができる、未病センターいせはら「クルリン健康測定コーナー」に新たな機器（肺年齢測定機）を導入し、充実を図りました（利用延べ人数739人）。

健診受診への動機付けのため、東海大学大学院医学研究科ライフケアセンターとの協働により「健康バス測定会」を引き続き実施し、イベントや各地域、商業施設などに出向いて、血管年齢や体組成等の測定会を実施しました（13回実施・延べ470人参加）。

## リーディングプロジェクト15

### ■ 子ども医療体制等の確保 5-2

#### 小児救急医療体制の充実

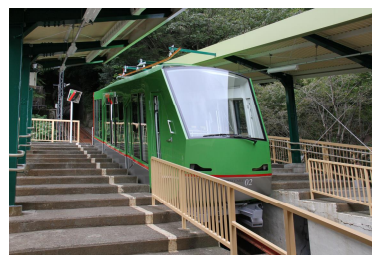
安全・安心の充実に向けて、小児2次救急医療体制を確保するため、引き続き、2次救急医療機関に対して、小児科医の確保を要請しました。

## リーディングプロジェクト16

### ■ 全国的なスポーツ大会の開催・誘致 5-6

#### 全国的なスポーツ大会の開催・誘致

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会により、「大山」が東京2020オリンピックの聖火リレールートに選定されました。地域の歴史的・文化的な魅力を発信できる場所として、通常の隊列を伴わずにリレーを行える「特殊区間」としての選定で、大山阿夫利神社下社から大山ケーブルカーを使用し、市営大山第二駐車場までがルートとなります。また、本市にゆかりのあるランナーとして、パラリンピック水泳メダリストで名誉市民の秋山里奈さんらが選ばれました。



一般社団法人日本クレー射撃協会主催の「第23回環太平洋クレー射撃大会」が県立伊勢原射撃場で開催され、全6カ国（日本、台北、韓国、オーストラリア、アメリカ、香港）から75人の選手が参加しました。大会運営を支援したほか、会場内での土産物販売、選手や家族を対象とした「大山詣りツアー」を実施するなどのおもてなしを行いました。





\*このほか、基本戦略⑤に関する取組として…

■ 住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー」に6年連続で参加。住民参加率は67.9%でした。海外の自治体と対戦するワールドチャレンジデーに初参加し、イスラエルのアッシュケロン市と対戦、勝利を収めました。 (市民総ぐるみスポーツイベントの推進 5-5)

■ 運動習慣のない人が、楽しみながら体を動かすきっかけづくりとして、歩数に応じて貯めたポイントと賞品が交換できる従来の「クルリン健康ポイント事業」の実施に加え、さまざまな市主催の健康づくりに関するイベントに参加することでポイントを貯めることができる「オープン参加型クルリン健康ポイント事業」を新たに実施しました。また、高知市発祥の百歳体操を用いた地域単位での運動指導「運動促進支援事業」を実施しました。 (健康クラブの促進 5-3)

■ 平塚保健福祉事務所秦野センター・東海大学医学部付属病院・伊勢原協同病院・医師会等の協力を得て、自治会・専門職・市民等さまざまな層に向けた、かかりつけ医普及啓発講演会を計画し実施しました。

■ 第3回目となる「子育て応援フェスタ」を開催。人形劇やヨガ、工作など親子で楽しめる企画を実施するとともに、育児相談をはじめとする各種相談コーナーや子育てに関する施策を紹介するブースを設け、切れ目のないきめ細やかな子育て支援体制について発信しました。



■ 子どもから大人まで多くの市民が集い、楽しめる場を目指し、総合運動公園の再生修復整備を進めました。ふわふわドームや大型複合遊具で、子どもたちがのびのびと遊ぶことができる子どもの広場「空と大地のゾーン」のほか、親子で使用できるトイレの設置、駐車場の増設を行いました。



伊勢原市公式イメージキャラクター  
**クルリン**

令和2年5月 伊勢原市企画部広報戦略課